

# 集中授業による「生きる力」の変化についてⅣ

— 2016-17, 2107-18 集中スキー IKR 調査報告 —

桂 豊  
山崎 俊輔  
鷗木 千加子  
水澤 克子  
伊東 浩司  
曾我部 晋哉  
吉本 忠弘

## The development of IKIRU CHIKARA by a ski intensive course in winter 2014-15,2016-17

Yutaka Katsura, Shunsuke Yamasaki, Chikako Ikarugi,  
Katsuko Mizusawa, Koji Ito, Akitoshi Sogabe,  
Tadahiro Yoshimoto

キーワード：集中スキー，IKR 調査，生きる力

### 【はじめに】

本学において開講している集中スキーについて、これまでに2011-12シーズン、2012-13シーズン、2013-14シーズン、2014-15シーズン、2015-16シーズンについて、集中スキーによる4泊5日の野外での体験が受講生達（大学生）に与える影響を調査することを目的にIKR調査を実施した（桂豊ら，2012；桂豊ら，2014；桂豊ら，2016）。

今回は、2016-17シーズン（以下2016年度）、2017-18シーズン（以下2017年度）について報告する。

### 【方法】

#### 1. 日程・場所・学生数・講師数・調査実施日

表1および表2は2016年度と2017年度の集中スキー概要である。

表1. 2016集中スキー概要

2016集中スキー	
日程	2017年2月7日～11日(4泊5日)
場所	Mt. 乗鞍

宿泊先	山水館信濃
学生数&講師数	学生数 82名(男 40名 女 42名)
	講師数 10名(本部・個別対応含む)
IKR調査実施日	Pre.: 2/7 実習開始前 Pos.: 2/11 閉講式終了後

表2. 2017集中スキー概要

2017集中スキー	
日程	2018年2月12日～16日(4泊5日)
場所	Mt. 乗鞍
宿泊先	山水館信濃
学生数&講師数	学生数 86名(男 49名 女 37名)
	講師数 10名(本部・個別対応含む)
IKR調査実施日	Pre.: 2/12 実習開始前 Pos.: 2/16 閉講式終了後

#### 2. 授業概要 & IKR 回答用紙, IKR の指標

表3は2016年度、表4は2017年度の授業日程である。JR大阪駅前に集合、その後貸切バスで移動、現地到着までにIKR事前調査を実施、最終日閉講式後にIKR事後調査を実施した。

表3 2016年度 授業日程

	2月7日	2月8日	2月9日	2月10日	2月11日
7:00		朝食	朝食	朝食	朝食
7:45	西梅田暫定バス駐車場	医務の時間	医務の時間	医務の時間	チェックアウト
8:00	出発				医務の時間
9:00	(IKR調査実施)	講習(班毎)	講習(班毎)	講習(班毎)	講習
	<阪神・名神・東海北陸・高山・安房トンネル>				
10:00	※トイレ休憩:基本、養老				上級者によるデモ
11:00	SAにて1回(約15分)				記念撮影
					講習終了
12:30	自由昼食	昼食(班毎)	昼食(班毎)	昼食(班毎)	レンタル返却
					昼食・閉講式
13:10	SA出発	休憩	休憩	休憩	(IKR調査実施)
					更衣・入浴
14:30	ホテル到着(予定)	講習(班毎)	講習(班毎)	講習(班毎)	出発(12:15予定)
	準備出来次第実習へ				
15:00	レベル毎に班分け				定期的にトイレ休憩
16:30	実習終了	講習終了	講習終了	講習終了	
17:00	着替え、入浴				
18:00	夕食(18:45)	夕食(18:15)	夕食(18:15)	夕食(18:15)	
	夕食後閉講式				
19:00					
					大阪駅周辺到着
20:00	講義①(20:00~20:45)	講義①(20:00~20:45)	講義①(20:00~20:45)	講義①(20:00~20:45)	(19:45予定)
	講義②(20:45~21:30)	講義②(20:45~21:30)	講義②(20:45~21:30)	講義②(20:45~21:30)	
21:00	入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	
22:00					解散
22:45	点呼	点呼	点呼	点呼	
23:00	消灯	消灯	消灯	消灯	

表4. 2017年度 授業日程

	2月12日	2月13日	2月14日	2月15日	2月16日
7:00		朝食	朝食	朝食	朝食
7:45	西梅田暫定バス駐車場	医務の時間	医務の時間	医務の時間	チェックアウト
8:00	出発				医務の時間
9:00	(IKR調査実施)	講習(班毎)	講習(班毎)	講習(班毎)	講習
	<阪神・名神・東海北陸・高山・安房トンネル>				
10:00	※トイレ休憩:基本、養老				上級者によるデモ
11:00	SAにて1回(約15分)				記念撮影
					講習終了
12:30	自由昼食	昼食(班毎)	昼食(班毎)	昼食(班毎)	レンタル返却
					昼食・閉講式
13:10	SA出発	休憩	休憩	休憩	(IKR調査実施)
					更衣・入浴
14:30	ホテル到着(予定)	講習(班毎)	講習(班毎)	講習(班毎)	出発(12:15予定)
	準備出来次第実習へ				
15:00	レベル毎に班分け				定期的にトイレ休憩
16:30	実習終了	講習終了	講習終了	講習終了	
17:00	着替え、入浴				
18:00	夕食(18:45)	夕食(18:15)	夕食(18:15)	夕食(18:15)	
	夕食後閉講式				
19:00					
					大阪駅周辺到着
20:00	講義①(20:00~20:45)	講義①(20:00~20:45)	講義①(20:00~20:45)	講義①(20:00~20:45)	(19:45予定)
	講義②(20:45~21:30)	講義②(20:45~21:30)	講義②(20:45~21:30)	講義②(20:45~21:30)	
21:00	入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	入浴・休憩	
22:00					解散
22:45	点呼	点呼	点呼	点呼	
23:00	消灯	消灯	消灯	消灯	

### 3. 生きる力の定義 (図1)

本調査では、これまでの報告同様、平成20年3月に改定された「学習指導要領」において「生きる力」の理念は変わらず継承されることが明確にされたことを受け、「生きる力」とは、「①確かな学力(基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力)であり、②豊かな人間性(自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性と③健康・体力(たくましく生きるための健康や体力)とした。

図1は「生きる力」、図2は「生きる力」IKR調査

回答用紙、図3は IKR 調査の上位尺度、中位尺度、下位尺度である。表5は各尺度の調査項目を示した。

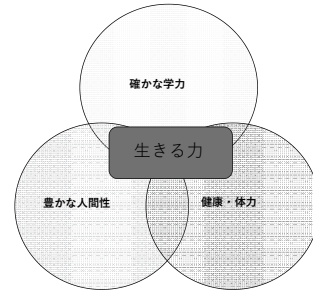


図1. 生きる力の定義

氏名	班	男	女				
・下のそれぞれの質問について、「とてもよくあてはまる」～「全くあてはまらない」の6段階で答えて下さい。 ・自分をもっともあてはまると思う番号に、○印を付けてください。 ・考えすぎると答えられなくなる場合があります。考えすぎず、どんどん答えて下さい。							
		とてもよくあてはまる	⇔	全くあてはまらない			
1	嫌なことは嫌とはっきり言える	1	2	3	4	5	6
2	人のために何かをしてあげるのが好きだ	1	2	3	4	5	6
3	自分で問題点や課題を見つけることができる	1	2	3	4	5	6
4	誰にでも話しかけることができる	1	2	3	4	5	6
5	グループをうまくまとめることができる	1	2	3	4	5	6
6	人の話をきちんと聞くことができる	1	2	3	4	5	6
7	「ありがとう」、「ごめんなさい」がうまく言えない	1	2	3	4	5	6
8	前向きに物事を考えられる	1	2	3	4	5	6
9	正しいこと、そしていけないことの判断ができる	1	2	3	4	5	6
10	人の悪口をよく言う	1	2	3	4	5	6
11	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	1	2	3	4	5	6
12	小さな失敗を恐れない	1	2	3	4	5	6
13	相手の立場になって考えることができる	1	2	3	4	5	6
14	わからないことは自分で調べる	1	2	3	4	5	6
15	小さなことでよくよする	1	2	3	4	5	6
16	草花の世話はあまり好きではない	1	2	3	4	5	6
17	その場にふさわしい行動ができる	1	2	3	4	5	6
18	生きていて良かったと思っている	1	2	3	4	5	6
19	自分の力で、問題を解決しようとする	1	2	3	4	5	6
20	嫌がらずによく働く	1	2	3	4	5	6
21	体を動かしても、疲れにくい	1	2	3	4	5	6
22	自分勝手なわがままを言わない	1	2	3	4	5	6
23	新しい物事に、すぐに慣れることができる	1	2	3	4	5	6
24	自分と違う意見や考えを、受け入れることができる	1	2	3	4	5	6
25	先を見通して、自分で計画が立てられる	1	2	3	4	5	6
26	いつも笑顔で過ごしている	1	2	3	4	5	6
27	暗い林の中の道を、ひとりで歩くことができる	1	2	3	4	5	6
28	病気にかかりやすい	1	2	3	4	5	6
29	誰にでも、挨拶ができる	1	2	3	4	5	6
30	未来への夢と希望をもっていない	1	2	3	4	5	6
31	決まり、ルールを守る事ができる	1	2	3	4	5	6
32	とても大きな声を出すことができる	1	2	3	4	5	6
33	身の回りの片付けや掃除ができる	1	2	3	4	5	6
34	少しらしい血が出てても平気である	1	2	3	4	5	6
35	他の人の失敗を許すことができる	1	2	3	4	5	6
36	様々な情報から必要なものが選べる	1	2	3	4	5	6
37	失敗しても、立ち直るのがはやい	1	2	3	4	5	6
38	仲間とうまく付き合えない	1	2	3	4	5	6
39	自分でできることは自分でやる	1	2	3	4	5	6
40	霸さや素直に、負けない	1	2	3	4	5	6

<裏面に続きます>

	とてもよくあてはまる	⇔	全くあてはまらない			
41 ナイフなどの刃物を、上手に使える	1	2	3	4	5	6
42 他人にあまり親切でない	1	2	3	4	5	6
43 長い距離を歩くことができる	1	2	3	4	5	6
44 お金や物の無駄使いをしない	1	2	3	4	5	6
45 自由な発想ができる	1	2	3	4	5	6
46 季節の変化を感じる事ができる	1	2	3	4	5	6
47 自分のいいところ、悪いところをよく知らない	1	2	3	4	5	6
48 色々な動物や虫を、手で触ることができない	1	2	3	4	5	6
49 誰とも仲良くできる	1	2	3	4	5	6
50 根気がない	1	2	3	4	5	6
51 自分のことが大好きである	1	2	3	4	5	6
52 自分からすすんで何でもやる	1	2	3	4	5	6
53 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	1	2	3	4	5	6
54 食べ物の好き嫌いが多い	1	2	3	4	5	6
55 腹が立っても、おさえることができる	1	2	3	4	5	6
56 花や風景などの美しいものに、感動できる	1	2	3	4	5	6
57 いろいろなことに興味がある	1	2	3	4	5	6
58 やりたいことが、たくさんある	1	2	3	4	5	6
59 多くの人に好かれている	1	2	3	4	5	6
60 今の自分は、幸せだと思う	1	2	3	4	5	6
61 読み書きがしっかりできる	1	2	3	4	5	6
62 様々なことを実際に体験している	1	2	3	4	5	6
63 生き物を、とても大切にする	1	2	3	4	5	6
64 人の心の痛みがわかる	1	2	3	4	5	6
65 大人や年上の人と、うまく付き合える	1	2	3	4	5	6
66 自然の中の出来事に興味がある	1	2	3	4	5	6
67 とても痛い怪我をしても我慢できる	1	2	3	4	5	6
68 自分で食事が作れる	1	2	3	4	5	6
69 部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである	1	2	3	4	5	6
70 早寝早起きである	1	2	3	4	5	6

ご協力有難うございました。

図2. IKR 調査回答用紙



図3. 「生きる力」の上位尺度, 中位尺度, 下位尺度

表5. 上位尺度, 中位尺度, 下位尺度の調査項目

上位尺度	中位尺度	下位尺度	調査項目
	心理的社会的能力	1非依存	1いやなことはいやとはっきり言える 15小さな失敗を恐れない 29新しいものごとにすぐに慣れることができない 43さまざまなことを実際に体験している 57自由な発想ができる
		2積極性	11前向きに物事を考えられる 25自分の力で問題を解決しようとする 39未来への夢と希望はあまりもっていない 53いろいろなことに興味がある 67自分から進んで何でもやる
		3明朗性	5誰にでも話しかけることができる 19小さなことでよくよする 33いつも笑顔で過ごしている 47失敗しても立ち直るのが早い 61やりたいことがたくさんある
		4交友・協調	7グループをうまくまとめることができる 21おとなや年上の人とうまくつきあえる 35多くの人に好かれている 49仲間とうまくつきあえない 63誰とも仲良くできる
		5現実肯定	9「ありがとう」「ごめんなさい」がうまく言えない 23生きていてよかったと思っている 37誰にでも挨拶ができる 51今の自分は幸せだと思う 65自分のことが大好きである
		6視野・判断	3自分で問題点や課題を見つけられることができる 17わからないことは自分で調べ 31先を見通して自分で計画を立てられる 45様々な情報から必要なものを選べる 59自分のしいところ, わるいところをよくしらない
		7適応行動	8人の話をきちんと聞くことができる 22その場にあわせて行動ができる 36読み書きがしっかりできる 50自分でできることは自分でやる
「生きる力」			64根気がない
	徳育的能力	8自己規制	14人の悪口をよいう 28自分勝手な, わがままを言わない 42身の回りの片付けやそうじができる 56お金やものの無駄遣いをしない 70腹が立ってもおさえることができる
		9自然への関心	6花や風景などの美しいものに, 感動できる 20生き物をとても大切に 34草花の世話はあまり好きでない 48季節の変化を感じるができる 62自然の中のできごとに興味がある
		10真面目勤勉	12正しいこと, してはいけないことの判断ができる 26嫌がらずによく働く 40きまりやルールを守ることができる 54他人にはあまり親切でない 68自分に割り当てられた仕事は, しっかりとやる
		11思いやり	2人のために何かをしてあげるのが好きだ 16相手の立場になって考えることができる 30自分と違う意見や考えを受け入れることができる 44他人の失敗を許すことができない 58人の心の痛みがわかる
	身体的能力	12日常的行動力	13部屋の中でなく, 外で遊ぶのが好きである 27からだを動かしても, 疲れない 41とても大きな声を出すことができる 55早寝早起きである 69食べ物の好き嫌いが多い
		13身体的耐性	4病気にかかりやすい 18少しくらい血がでも平気である 32暑さや寒さに負けない 46長い距離を歩くことができる 60とても痛い怪我をしても我慢できる
		14野外生活・技能	10自分で食事が作れる 24いろいろな動物や虫を, 手で触ることができない 38ナイフ・包丁などの刃物を上手に使える 52暗い林の中の道を, ひとりで歩くことができる 66洗濯機がなくても, 手で洗濯できる

4. 分析方法

本調査では、統計処理については、エクセル統計2010を使い、T検定（対応あり）を実施した。

【結果】

1. 上位尺度

(1) 上位尺度・「生きる力」全体の得点の変容（図4）

上位尺度である「生きる力」について全体の得点の変容について比較をした結果を図4に示した。

分析の結果、2016年度、2017年度共に実習前後で比較すると0.1%水準で有意に増加していた。t値は2016年度：7.99、2017年度：7.1であり、「あてはまる」の方向へ変化していたことが分かった。

以上のことから、2016年度、2017年度の集中スキーは、「生きる力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。

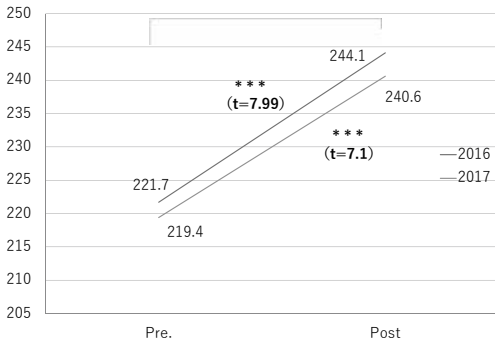


図4 2016、2017「生きる力」全体の得点の変容

(2) 上位尺度・「生きる力」男女別の得点の変容（図5、図6）

上位尺度である「生きる力」の男女別の得点の変容について比較をした結果を図5、図6に示した。

分析の結果、2016年度について、男性と女性の「生きる力」の得点は実習前後で比較すると、共に0.1%水準で有意に増加していた。t値は男性：6.32、女性：5.08であり、「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

2017年度について、男性と女性の「生きる力」の得点は実習前後で比較すると、共に0.1%水準で有意に増加していた。t値は男性：6.95、女性：4.25であり、「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

意に増加していた。t値は男性：6.95、女性：4.25であり、「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2016年度、2017年度は全体の結果同様、男女共に、「生きる力」の統計的に有意な向上が認められた。

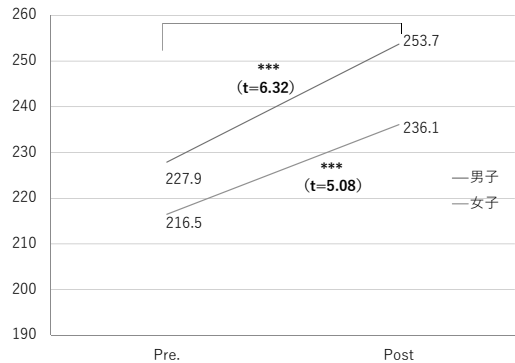


図5 2016「生きる力」得点の実習前後の比較（男女）

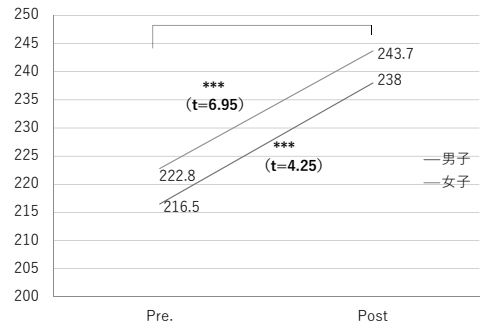


図6 2017「生きる力」得点の実習前後の比較（男女）

2. 中位尺度

(1) 中位尺度・全体の得点の変容（図7、図8）

「生きる力」の中位尺度である「心理的社会的能力（下位尺度1～7）」、「徳育的能力（下位尺度8～11）」、「身体的能力（下位尺度12～14）」の3つの能力について全体の得点の変容について比較をした結果を図7（2016年度）、図8（2017年度）に示した。

	心理的・社会的能力	徳育的能力	身体的能力
Pre.	112.6	67.6	44.3
Post	125.1	70.6	47.2
T	<b>8.18</b> ***	<b>2.95</b> **	<b>4.52</b> ***

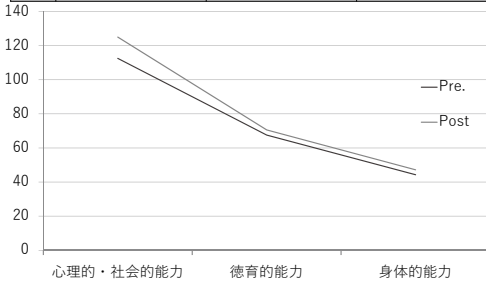


図7 2016「生きる力」を構成する各能力の実習前後の比較

	心理的・社会的能力	徳育的能力	身体的能力
Pre.	111.6	66.3	41.5
Post	123.3	70.0	45.1
T	<b>7.06</b> ***	<b>3.54</b> ***	<b>4.30</b> ***

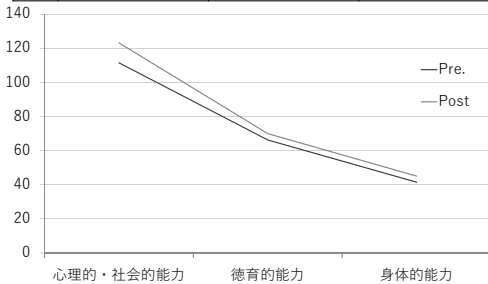


図8 2017「生きる力」を構成する各能力の実習前後の比較

分析の結果、「心理的社会的能力」の得点は、2016年度、2017年度共に0.1%水準で有意に増加していた。t値は2016年度：8.18, 2017年度：7.06であり、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2016年度、2017年度の集中スキーは、「心理的社会的能力」全体の統計的に有意な向上が認められた。

「徳育的能力」の得点は、2016年度は1%水準、2017年度は0.1%水準で共に有意に増加していた。t値は2016年度：2.95, 2017年度：3.54であり、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2016年度、2017年度の集中スキーは、「徳育的能力」全体の統計的に有意な向上が認められた。

「身体的能力」の得点は、2016年度、2017年度共に0.1%水準で有意に増加していた。t値は2016年度：

4.52, 2017年度：4.30であり、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2016年度、2017年度の集中スキーは、「身体的能力」全体の統計的に有意な向上が認められた。

これらをまとめると、2016年度、2017年度の集中スキーは、共に全体の3つの中位尺度について統計的に有意な向上が認められた。

(2) 中位尺度・心理的社会的能力・男女別 (図9, 図10)

中位尺度である「心理的社会的能力 (下位尺度1~7)」男女別の得点の変容について比較した結果を図9 (2016年度), 図10 (2017年度) に示した。

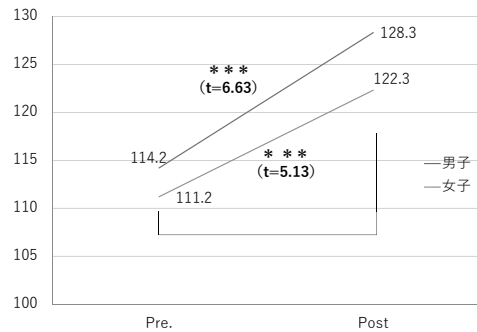


図9 2016 心理的社会的能力得点の実習前後の比較 (男女)

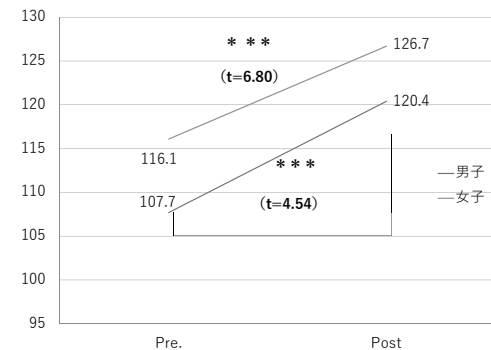


図10 2017 心理的社会的能力得点の実習前後の比較 (男女)

分析の結果、2016年度について、「心理的社会的能力」男女別の得点は、男性、女性共に0.1%水準で

有意に増加していた。t値は男性：6.63, 女性：5.13であり,「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

2017年度について,「心理的社会的能力」男女別の得点は,男性,女性共に0.1%水準で有意に増加していた。t値は男性:6.80, 女性:4.54であり,「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

以上のことから,2016年度,2017年度は男女共に,「心理的社会的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

(3) 中位尺度「徳育的能力」男女別 (図11, 図12)

中位尺度である「徳育的能力 (下位尺度8～11)」男女別の得点の変容について比較した結果を図11 (2016年度), 図12 (2017年度) に示した。

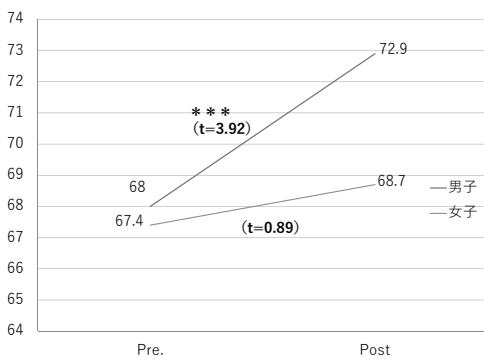


図11 2016 徳育的能力得点の実習前後の比較 (男女)

男女別の得点は,男性は0.1%水準で有意に増加していた。t値は男性:3.92, 女性:0.89であり,男性は「あてはまる」の方向へ有意に変化したことが分かった。

2017年度について,「徳育的能力」男女別の得点は,男性が0.1%水準で有意に増加していた。t値は男性:6.80, 女性:1.64であり,男性が「あてはまる」の方向に有意に変化していたことが分かった。

以上のことから,2016年度,2017年度は,男女共に「徳育的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

(4) 中位尺度「身体的能力」男女別 (図13, 図14)

中位尺度である「身体的能力 (下位尺度12～14)」男女別の得点の変容について比較した結果を図13 (2016年度), 図14 (2017年度) に示した。

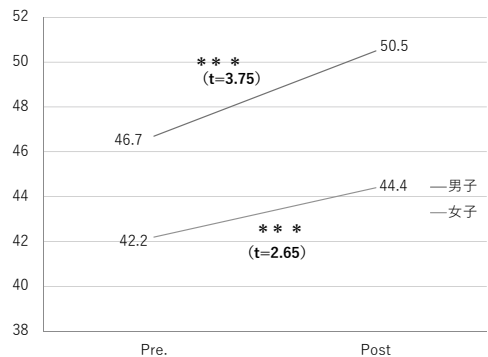


図13 2016 身体的能力得点の実習前後の比較 (男女)

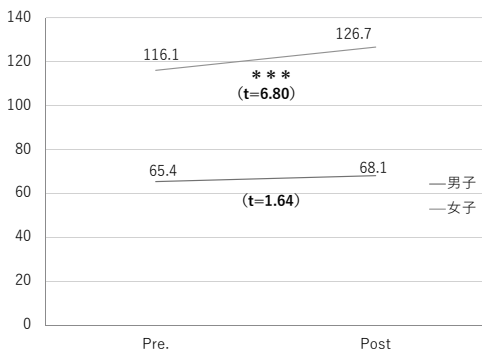


図12 2017 徳育的能力得点の実習前後の比較 (男女)

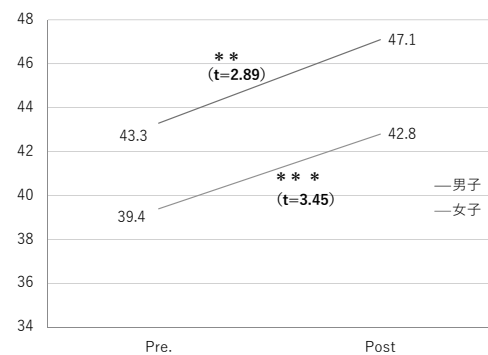


図14 2017 身体的能力得点の実習前後の比較 (男女)

分析の結果,2016年度について,「徳育的能力」

分析の結果,2016年度について,「身体的能力」

男女別の得点は、男女共に0.1%水準で有意に増加していた。t値は男性：3.75, 女性：2.65であり、男女共に「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

2017年度について、「身体的能力」男女別の得点は、男性が1%水準、女性が0.1%水準で有意に増加していた。t値は男性：2.89, 女性：3.45であり、男女共に「あてはまる」の方向へ有意に変化していたことが分かった。

以上のことから、2016年度, 2017年度共男女共に、「身体的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

### 3. 下位尺度

#### (1) 下位尺度・全体 (図 15, 図 16)

「生きる力」下位尺度の指標である各指標について全体の得点の変容について比較した結果を図 15 (2016年度), 図 16 (2017年度) に示した。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
Pre	15.7	16.1	15.7	14.8	17	15.7	17.5	16	16	18.5	17.1	13.9	15.8	14.1
Po	17.3	17.9	17.9	17.2	18.5	17.4	18.9	16.9	18	19.4	18.5	14.8	17.2	14.9
T	4.54	5.2	6.44	6.7	4.35	5.75	4.8	2.58	4.97	3.66	4.57	2.71	3.94	1.94
	***	***	***	***	***	***	***	**	**	***	***	**	***	*

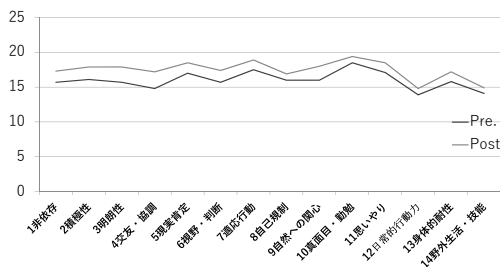


図 15 2016 「生きる力」各指標の実習前後の比較

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
Pre	15.2	16.3	16.2	14.6	17.3	15.4	16.5	14.9	16.2	17.8	17.4	12.7	15.1	13.7
Po	17.0	17.7	18.0	16.5	19.3	16.6	18.3	16.3	17.9	19.4	18.7	14.5	16.5	14.1
T	4.74	4.24	5.32	5.86	5.17	2.88	4.67	4.02	4.01	5.04	3.24	4.17	3.94	1.21
	***	***	***	***	***	**	***	***	***	***	***	***	**	*

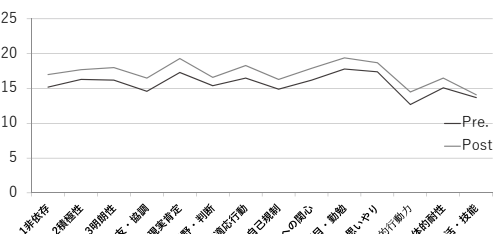


図 16 2017 「生きる力」各指標の実習前後の比較

分析の結果, 2016 年度 (図 15) について全体では、非依存 (0.1%水準 t=4.54), 積極性 (0.1%水準 t = 5.2), 明朗性 (0.1%水準 t = 6.44), 交友・協調 (0.1%水準 t=6.7), 現実肯定 (0.1%水準 t = 4.35), 視野・判断 (0.1%水準 t = 5.75), 適応行動 (0.1%水準 t = 4.8), 自己規制 (1%水準 t = 2.58), 自然への関心 (1%水準 t = 4.97), 真面目・勤勉 (0.1%水準 t = 3.66), 思いやり (0.1%水準 t = 4.57), 日常的行動力 (1%水準 t = 2.71), 身体的耐性 (0.1%水準 t = 3.94), 野外生活・技能 (5%水準 t = 1.94) の得点が増加しており、「あてはまる」の方向に変化していたことがわかった。

以上のことから、2016 年度は全体の非依存、積極性、明朗性、交友・協調、現実肯定、視野・判断、適応行動、自己規制、自然への関心、真面目・勤勉、思いやり、日常的行動力、身体的耐性、全ての下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。

2017 年度 (図 16) について全体では、非依存 (0.1%水準 t=4.74), 積極性 (0.1%水準 t = 4.24), 明朗性 (0.1%水準 t = 5.32), 交友・協調 (0.1%水準 t=5.86), 現実肯定 (0.1%水準 t = 5.17), 視野・判断 (1%水準 t = 2.88), 適応行動 (0.1%水準 t = 4.67), 自己規制 (0.1%水準 t = 4.02), 自然への関心 (0.1%水準 t = 4.01), 真面目・勤勉 (0.1%水準 t = 5.04), 思いやり (0.1%水準 t=3.24), 日常的行動力 (0.1%水準 t = 4.17), 身体的耐性 (1%水準 t = 3.94), 野外生活・技能 (5%水準 t = 1.21) の全ての得点が増加しており、「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。

以上のことから、2017 年度は全体の非依存、積極性、明朗性、交友・協調、現実肯定、視野・判断、適応行動、自己規制、自然への関心、真面目・勤勉、思いやり、日常的行動力、身体的耐性、全ての下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。

以上のことから、2016 年度, 2017 年度共に全体の下位尺度は全ての項目で統計的に有意な向上が認められた。



(2) 下位尺度・男女別男性 (図 17, 図 18)

下位尺度の各指標男性の得点の変容について比較した結果を図 17 (2016 年度), 図 18 (2017 年度) に示した。

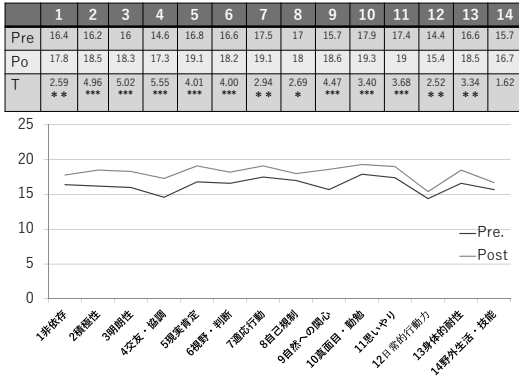


図 17 2016「生きる力」各指標の実習前後の比較(男性)

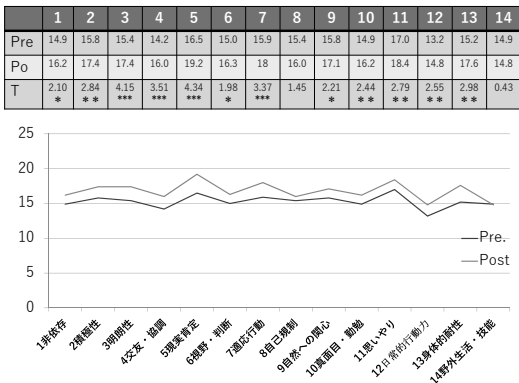


図 18 2017「生きる力」各指標の実習前後の比較(男性)

分析の結果, 2016 年度 (図 17) について男性では, 非依存 (1% 水準  $t=2.59$ ), 積極性 (0.1% 水準  $t=4.96$ ), 明朗性 (0.1% 水準  $t=5.02$ ), 交友・協調 (0.1% 水準  $t=5.55$ ), 現実肯定 (0.1% 水準  $t=4.01$ ), 視野・判断 (0.1% 水準  $t=4.00$ ), 適応行動 (1% 水準  $t=2.94$ ), 自己規制 (5% 水準  $t=2.69$ ), 自然への関心 (0.1% 水準  $t=4.47$ ), 真面目・勤勉 (0.1% 水準  $t=3.40$ ), 思いやり (0.1% 水準  $t=3.68$ ), 日常的行動力 (1% 水準  $t=2.52$ ), 身体的耐性 (1% 水準  $t=3.34$ ) の得点が増加しており, 「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。以上のことから 2016 年度は, 男性の非依存, 積極性,

明朗性, 交友・協調, 現実肯定, 視野・判断, 適応行動, 自己規制, 自然への関心, 真面目・勤勉, 思いやり, 日常的行動力, 身体的耐性の統計的に有意な向上が認められた。

2017 年度 (図 18) について男性では, 非依存 (5% 水準  $t=2.10$ ), 積極性 (1% 水準  $t=2.84$ ), 明朗性 (0.1% 水準  $t=4.15$ ), 交友・協調 (0.1% 水準  $t=3.51$ ), 現実肯定 (0.1% 水準  $t=4.34$ ), 視野・判断 (5% 水準  $t=1.98$ ), 適応行動 (0.1% 水準  $t=3.37$ ), 自然への関心 (5% 水準  $t=2.21$ ), 真面目・勤勉 (1% 水準  $t=2.44$ ), 思いやり (1% 水準  $t=2.79$ ), 日常的行動力 (1% 水準  $t=2.55$ ), 身体的耐性 (1% 水準  $t=2.98$ ) の得点が増加しており, 「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。

以上のことから, 2017 年度は男性の非依存, 積極性, 明朗性, 交友・協調, 現実肯定, 視野・判断, 適応行動, 自然への関心, 真面目・勤勉, 思いやり, 日常的行動力, 身体的耐性の統計的に有意な向上が認められた。

(3) 下位尺度・男女別女性 (図 19, 図 20)

分析の結果, 2016 年度 (図 19) について女性では, 非依存 (0.1% 水準  $t=3.82$ ), 積極性 (1% 水準  $t=2.76$ ), 明朗性 (0.1% 水準  $t=4.19$ ), 交友・協調 (0.1% 水準  $t=4.11$ ), 現実肯定 (5% 水準  $t=2.13$ ), 視野・判断 (0.1% 水準  $t=4.14$ ), 適応行動 (0.1% 水準  $t=4.07$ ), 自然への関心 (1% 水準  $t=2.62$ ), 真面目・勤勉 (5% 水準  $t=1.86$ ), 思いやり (1% 水準  $t=2.83$ ), 身体的耐性 (5% 水準  $t=2.25$ ) の得点が増加しており, 「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。

以上のことから 2016 年度は, 女性の非依存, 積極性, 明朗性, 交友・協調, 現実肯定, 視野・判断, 適応行動, 自然への関心, 真面目・勤勉, 思いやり, 身体的耐性の統計的に有意な向上が認められた。

2017 年度 (図 20) について女性では, 非依存 (0.1% 水準  $t=4.55$ ), 積極性 (1% 水準  $t=3.29$ ), 明朗性 (1% 水準  $t=3.20$ ), 交友・協調 (0.1% 水準

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
Pre	15.2	16	15.4	15.0	17.2	14.9	17.4	15.2	16.3	18.9	16.9	13.6	15.2	12.8
Po	16.9	17.4	17.5	17.1	18.0	16.8	18.8	15.9	17.6	19.6	18.1	14.2	16.2	13.4
T	3.82 ***	2.76 **	4.19 ***	4.11 ***	2.13 *	4.14 ***	4.07 ***	1.58	2.62 **	1.86 *	2.83 **	1.48	2.25 *	1.09

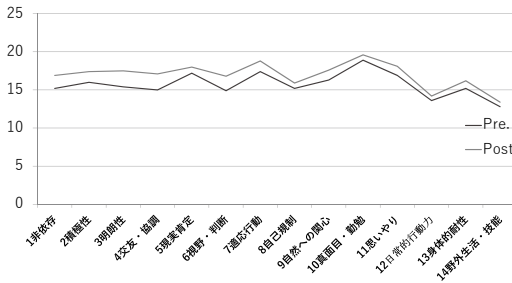


図 19 2016「生きる力」各指標の実習前後の比較(女性)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
Pre	15.6	16.8	17.2	15.2	18.2	15.9	17.2	14.3	16.7	18.4	17.9	12.1	14.9	12.4
Po	17.8	18.1	18.6	17.1	19.4	17.0	18.6	16.5	18.8	19.9	19	14.2	15.4	13.3
T	4.55 ***	3.29 **	3.20 **	4.94 ***	2.93 **	2.08 *	3.29 **	4.43 ***	3.50 ***	4.65 ***	1.72 *	3.27 **	0.91	2.70 **

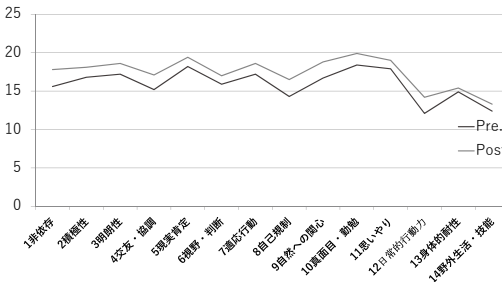


図 20 2017「生きる力」各指標の実習前後の比較(女性)

t=4.94), 現実肯定(1%水準 t = 2.93), 視野・判断(5%水準 t = 2.08), 適応行動(1%水準 t = 3.29), 自己規制(0.1%水準 t = 4.43), 自然への関心(0.1%水準 t = 3.50), 真面目・勤勉(0.1%水準 t = 4.65), 思いやり(5%水準 t=1.72), 日常的行動力(1%水準 t = 3.27), 野外生活・技能(1%水準 t = 2.70)の得点が増加しており,「あてはまる」の方向に有意に変化していたことがわかった。

以上のことから,2017年度は女性の非依存,積極性,明朗性,交友・協調,現実肯定,視野・判断,適応行動,自己規制,自然への関心,真面目・勤勉,思いやり,日常的行動力,野外生活・技能の統計的に有意な向上が認められた。

【まとめ】

本学では,冬季休暇中に集中スキーを開講しており,

2016年度,2017年度受講生を対象にIKR調査を実施し,授業を通しての野外での体験が受講生達に与える影響を調査し,以下のようなことがわかった。

1. 上位尺度「生きる力」について,2016年度,2017年度の集中スキーは,「生きる力」の全体および男女共に統計的に有意な向上が認められた。

2.

(1) 中位尺度全体について,2016年度,2017年度の集中スキーは,「心理的社会的能力」,「徳育的能力」,「身体的能力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 中位尺度男女別について

1)「心理的社会的能力」男女別について,2016年度,2017年度共男女共に,「心理的社会的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

2)「徳育的能力」男女別について,2016年度,2017年度共男女共に,「徳育的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

3)「身体的能力」男女別について,2016年度,2017年度共男女共に,「身体的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

3.

(1) 下位尺度全体について,2016年度の集中スキーは全体の積極性,視野・判断,真面目・勤勉,日常的行動力の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 下位尺度男女別について

1) 下位尺度男女別男性について,2016年度は男性の非依存,積極性,明朗性,交友・協調,現実肯定,視野・判断,適応行動,自己規制,自然への関心,真面目・勤勉,思いやり,日常的行動力,身体的耐性の統計的に有意な向上が認められた。また,2017年度は男性の非依存,積極性,明朗性,交友・協調,現実肯定,視野・判断,適応行動,自然への関心,真面目・勤勉,思いやり,日常的行動力,身体的耐性の統計的に有意な向上が認められた。

2) 下位尺度男女別女性について,2016年度は女性の非依存,積極性,明朗性,交友・協調,現実肯定,視野・判断,適応行動,自然への関心,真面目・

勤勉, 思いやり, 身体的耐性の統計的に有意な向上が認められた。また, 2017年度は女性の非依存, 積極性, 明朗性, 交友・協調, 現実肯定, 視野・判断, 適応行動, 自己規制, 自然への関心, 真面目・勤勉, 思いやり, 日常的行動力, 野外生活・技能の統計的に有意な向上が認められた。

## 文献

- 桂豊ら (2012) 集中授業の「生きる力」の変化について - 2011 集中スキー IKR 調査より - 平成 25 年度甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (19)
- 桂豊ら (2014) 集中授業の「生きる力」の変化についてⅡ - 2013-14 集中スキー IKR 調査より - 平成 27 年度甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (20)
- 桂豊ら (2016) 集中授業の「生きる力」の変化についてⅢ - 2014-15, 2015-16 集中スキー IKR 調査報告 - 平成 29 年度甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (21)

